

令和5年度第1回練馬区在宅療養推進協議会認知症専門部会会議要録

- 1 日時 令和5年5月22日(月曜) 午後6時30分～8時
- 2 開催方法 Web会議システムによるオンライン開催
- 3 出席者 <委員>
古田委員、寺嶋委員、田邊委員、塚本委員、會田委員、鈴木委員、鵜浦委員、油山委員、志寒委員、樋口委員、村山委員、豊委員
吉岡委員(高齢施策担当部長:部会長)、阿部委員(高齢者支援課長)、吉川委員(高齢社会対策課長)、風間委員(介護保険課長)、屋澤委員(地域医療課長)
<事務局>
高齢者支援課
- 4 公開の可否 オンライン会議のため非公開
- 5 次第
 - 1 開会
 - 2 令和4年度練馬区在宅療養推進事業実施結果について
 - 3 令和5年度練馬区在宅療養推進事業実施スケジュールについて
 - 4 令和4年度認知症予防講演会実施結果
 - 5 令和4年度チームオレンジ活動および本人発信支援の取組み
 - 6 令和4年度もの忘れ検診実施結果
 - 7 その他
- 6 資料
 - 資料1 令和4年度練馬区在宅療養推進事業実施結果
 - 資料2 令和5年度練馬区在宅療養推進事業実施スケジュール
 - 資料3 令和4年度認知症予防講演会実施結果
 - 資料4 令和5年度チームオレンジ活動および本人発信支援の取組み
 - 資料5 - 1 令和4年度もの忘れ検診実施結果
 - 資料5 - 2 令和5年度チームオレンジ活動および本人発信支援の取組み
 - 資料6 - 1 第9期練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定について
 - 資料6 - 2 第9期練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(日常生活圏域について 検討資料)
 - 資料6 - 3 第9期練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(施策3認知症高齢者への支援の充実 検討資料)
- 7 事務局 練馬区高齢施策担当部高齢者支援課在宅介護支援係
電話 03-5984-4597

8 会議の概要

(部会長)

【挨拶、新委員の紹介】

(事務局)

【出席確認、資料確認】

(部会長)

次第 1 資料 1 令和 4 年度練馬区在宅療養推進事業実施結果について説明を。

(事務局)

【資料 1】について説明。

(部会長)

資料 1 について意見や感想はいかがか。

(部会長)

介護学べるサロンは協力いただく事業者数を増やしているのはいかがか。

(委員)

今年度より新たに加わり初めて介護学べるサロンを実施するが、6 月に在宅医療の医師に協力いただき看取りをテーマに計画している。年 2 回の開催を予定している。地域の皆様の力を借りながら良いものを開催していきたい。

(部会長)

次第 2 資料 2 令和 5 年度練馬区在宅療養推進事業実施スケジュールについて説明を。

(事務局)

【資料 2】について説明。

(部会長)

資料 2 について意見や感想はいかがか。

(部会長)

次第 3 資料 3 令和 4 年度認知症予防講演会実施結果について説明を。

(事務局)

【資料3】について説明。

(部会長)

資料3について、意見や感想はいかがか。

(委員)

会場で参加をしたが、高齢者の参加者が多く、熱心にメモをとられる姿が印象的だった。講義も分かりやすく、認知症予防の話のニーズが高いと感じた。認知症の予防は病院でも行っているが、今後も認知症予防についての講演会があるとありがたい。

(部会長)

次第4 令和5年度チームオレンジ活動および本人発信支援の取組みについて説明を。

(事務局)

【資料4】について説明。

(部会長)

資料4について、意見や感想はいかがか。

(部会長) 民生委員の立場からいかがか。

(委員)

3 か月ほど前になるが、道で迷っていた高齢者を町会役員の方が見つけて私の家へ来たことがあった。その方はだいぶ昔のことを話されていて、住んでいる場所を聞き出そうとしても難しい状況だった。近所の交番に相談したところ、以前にも迷われていたことがある方だと分かり家庭と連絡がとれて、最終的には家に送り届けることができた。実際に困った状況にある認知症の方に遭遇することがあるので、民生委員としても町会の役員としても認知症について勉強することが大事であると改めて感じた。

(委員)

今のお話は民生委員と町会役員が連携し、地域の認知症と思われる方の支援にあたったとのこと、感謝申し上げます。認知症の方を支えるためには地域の方の協力が不可欠である。練馬区では高齢者見守りネットワーク事業協定をすすめており、様々な民間事業者、例えば日常的に使う電気、ガス、水道の事業者や新聞配達の実業者等と協定を結んでいる。事業者の方には、通常の業務の中で認知症と思われる方を見かけたら地域包括支援センターへ連絡をいただくという形で取り組んでいただいている。今後も地域の方々と連携しながら認知症の高齢者を支援する取組みを進めていきたい。

(委員)

チームオレンジ活動が始まり数年が経過し、地域包括支援センターとして何をすれば良いのか分かってきた。新人保健師へ伝える際にも、今年2月のチームオレンジ連絡会の資料も分かりやすく視覚的に行動がしやすいものになってきていると感じている。また各地域で何を行っているのか各地域包括支援センターの報告書が見られるように環境を整えてもらったことで、実践がしやすくなっていると感じている。

(委員)

先ほどの認知症予防講演会の感想でもあったように、キャラバン・メイトとして認知症サポーター養成講座の講師をさせていただいても、当事者の方ではないかと思われる方が多くなっている。前列の方に高齢者の方が座られて一生懸命にメモを取り読みながら聞かれている。ご自身に置き換えて考えたときに、こういう症状があるなと読み、認知症の方のここを支えなければならないと話したときにも深く聞かれている姿が見られる。講座が終わった後に自分に心配があると質問をされてくることはまだ少ないが、今後は多くなるのではないか。また、地域包括支援センターの職員やデイサービスの職員など専門職の方でも認知症サポーター養成講座に何度も参加されている方も多い。標準テキストの内容に基づきながら、キャラバン・メイトも勉強したり、認知症の方の分かりやすい行動や言動を例にとりあげながら、皆で認知症の方を支えられるような体制を、当事者も含めて作っていくような啓発をしたいと考えている。

(部会長) 今後も協力しながら地域で支える体制を作っていきたい。よろしくお願いします。

(部会長)

次第5 令和4年度もの忘れ検診実施結果について説明を。

(事務局)

【資料5】について説明。

(部会長)

資料5について、意見や感想はいかがか。

(委員)

もの忘れ検診に手を挙げて参加協力した医師たちにより、令和5年度もスタートしているところだが、数を増やすことの難しさを感じている。いくつかの区の会議に参加するなかで、認知症の早期発見に対しても、様々な意見を耳にしている。今後も認知症が増えていく中で、様々な啓発活動を通じて高齢者の生活を守っていくことが必要である。今後も医師会として様々な努力を通じて区と協力していきたい。

(委員)

実施医療機関として当院にももの忘れ検診で受診される方は多くない、精神科の病院なのでハード

ルが高いと思われる。一方でたくさんの方が受診されているクリニックもあり、受診のしやすさは医療機関によるかと思う。検診に対して様々な意見があるようだが、一般区民向けの講演会などで積極的に宣伝していきたい。

（委員）

薬局でも、もの忘れ検診のポスターを掲示しているが、ご自分からもの忘れ検診を受けてくる方は、自分が何でもないということを証明するために受診されている印象がある。薬剤師のほうで、受けていただきたい方の場合は、その方の生活状況について、いざというときに支えになる友達やご家族がいるかどうか地域包括支援センターにその方の生活状況を確認したり、事前に医師に相談させていただいたりしてから、もの忘れ検診をうけていただく話をしている。認知症と分かって困らないように配慮をしてから紹介するようにしている。薬局に十数年間通っていただく関係性の中で、顔の表情や着るものの変化から感じ取れる異変や、伴侶の死など人生の大きなドラマによる変化に気が付くこともできるため、情報提供をしながらかかりつけ医や地域包括支援センターと連携する事例も多くある。ポスターの掲示をきっかけに、もの忘れ検診について薬剤師会で共有して練馬区内どこの薬局でも同様の対応ができるようにしたい。

（委員）

練馬区の認知症検診は、東京都で実施している自治体の中でも順調に思う。数を増やすことが大変だということは実施してみればじめて分かることである。これだけの方が受診して、何割かの方には地域包括支援センターが介入し非常に順調な滑り出しである。今後も事業を活用していただきたい。

（委員）

地域住民から免許更新の際の認知機能検査に使えるということで非常に助かったという意見をいただいている。

（委員）

他の検診のときに、もの忘れ検診も誘導して受けていただく方法についてお聞きしたい。事業所で看取りをした方の配偶者について、ご家族がもの忘れ検診の受けさせたいとの意向だがご本人には自覚がないため、まずは認知症ガイドブックをお持ちしてチェックリストを紹介しようと思う。本人が嫌だと言えば難しいだろうが、うまくお誘いする方法についてご意見を伺いたい。

（委員）

利用者様のご家族から、もの忘れ検診の封筒が届いたと相談を受けることが多く、受けた方がいいですよとお声かけさせていただいている状況である。対象拡大をして、70歳以上で希望する方が増えているので、該当の方が70歳以上であれば、堅苦しくなく気軽にまずはチェックリストからという形で勧められれば良いと思う。

(委員)

当事業所では、認知症が進んだ方が多いが、経過をみると診断のときにトラウマに近い心の傷を負ったという方がたくさんいらっしゃる。「認知症といわれた。なぜ、私が認知症なんだ。」と。認知症に対する偏見がはびこっていること自体が異常なのだが、自分は認知症かもしれない、もしくは自分は認知症ではないと思っていたところに、「認知症かもしれない」という診断を受けた時点でかなり生活の危機に陥ると思う。同時に地域包括支援センターの個別支援に対する期待も大きい。

例えば国の認知症希望大使の丹野さんがやっているオレンジドアは、診断をうけた直後に丹野さんたち本人がやっている話し合いに参加できる仕組みをとっている。医師が、認知症の人があちらにいるよ、これからの生活のことをきいてごらん、と話しているそうだ。認知症と診断されたショックを和らげるきめ細やかな対応が必要だと思う。

(委員)

ご意見をいただいたように、もの忘れ検診の進め方は難しいところもあると考えている。区では70歳と75歳の方全員に郵送で検診のご案内をしているが、全員へ送っていることがなかなか伝わらず、郵便が届いた方の中には自分は認知症ではないのになぜ区から送ってくるのかと反応する方もいらっしゃる。区としては、70歳と75歳の方全員に受診券をお送りしましたと、分かりやすくポスターなどでお知らせしている。またポスターの文言もできるだけ柔らかい表現で「探しものが増えたかなと思ったら...」とし、直接、認知症という言葉を使わないよう配慮をしている。そのような配慮をしながら、地域包括支援センターや介護事業者の方々と連携をし、もの忘れ検診の周知を進めていきたいと考えているので、引き続きよろしく願います。

(部会長)

次第6 第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画について説明を。

(事務局)

【資料6】について説明。

(部会長)

資料6について、意見や感想はいかがか。

(委員)

5月15日の地域包括支援センター運営協議会でもお話をさせていただいたが、地域包括支援センターや古くから活動している地域活動団体に当事業所も関わり、認知症の方を地域で支える地域活動団体においてマップを作るなどの活動をしている。そこで、いかにして地域ごと、認知症の気配のある方、認知症になった方をうまく地域にくるみこんでいくかというお話をさせていただいた。その事例の方も認知症ということでショックを受けて生活が大きく崩れてしまった方だった。認知症予防に関しては、非常に要望が強く、私も認知症予防の話をしていると、聞いている方の期待が大きいことが分かる。予防には1次予防、2次予防、3次予防があり、よく講義で話されるのは1次予防で

認知症にならないことが大切だと言うが、例えば予防プログラムの講座で、2017年のデータで認知症を35%防げる要因があってもそのうち小児からの教育が8%を占め、喫煙にしても5%、耳の聞こえの悪さが9%程度であったと思う。認知症予防講座では認知症には脳トレなどでは防げない要因が多いと伝えているのではないか。あくまでも予防は、防ぐことができるかもしれないというレベルで話をし、大事なことは認知症になっても認知症とともに生きていくことができるのかということ伝えるのが本当の意味での認知症予防だと思う。

認知症予防という意味では、以前実施していた認知症地域生活講座として、例えば、認知症グループホームや認知症デイサービスでいかに本人が生き生きと暮らしているかを地域に伝えようとする動きがあったが、そうした3次予防的なことを取り入れながら今後の取り組みをしてくれると非常にありがたい。

N-improの話が出ていたが、介護学べるサロンでN-improをやったところ、中学生くらいのお子さんと親御さんが参加されて、お子さんがN-improで素晴らしい回答をしてとても驚いた。認知症のシーンを長い目でみて、子どもたちへのアプローチとして、例えば教育委員会へN-improの話をする取り組みも、私たちがこの先10年、20年、30年と認知症の方を地域で支えていくには非常に大切だと思う。

(委員)

良く計画を立てられている。予防も組み入れられているが、練馬区は以前から一人暮らし高齢者を支えることに力を入れているので今後も深めてもらいたい。また抗認知症薬の新薬ができると、予防と治療の面で混乱が生じることが予想されるので、医師会や認知症疾患医療センターと協力して正しい情報を伝えていただきたい。

(部会長)

全体をとおして、意見等はいかがか。

(部会長)

次回日程について説明を。

(事務局)

次回は令和5年10月30日(月)オンラインを予定。

(部会長)

【挨拶】

閉会